

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	スクルドエンジェル保育園方南町園
法人名	SOUキッズケア株式会社
法人所在地	東京都杉並区方南2-12-16

1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいごのことばであそんでみよう

<テーマの設定理由>

当園では、保育士による日常の保育に加え、外国人講師による英語レッスンや自由遊びの時間における関わりを通して、子どもたちが英語に触れる機会がある。子どもたちは英語の音やリズムに興味を示し、挨拶や単語をまねしながら楽しむ姿が見られた。

こうした自然な興味関心を大切に、耳が敏感な乳幼児期において、生活の中で無理なく英語の音やことばに親しめる環境を整えることが重要であると考えている。また、外部講師との関わりで得られた経験を、日常の保育の中にも広げていくことで、より継続的な学びにつながると捉えている。

そこで、保育士主体の活動と外国人講師との関わりを双方を取り入れながら、英語の音やリズムに触れ「ことばっておもしろい」と感じられる体験を広げ、子どもたちが主体的に関わることができるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年3月の期間を通して、日常の保育の中に継続的に取り入れて実施した。

- ・朝の会や帰りの会における英語の歌や簡単なやりとり
- ・英語絵本の読み聞かせや音遊び
- ・英語教材を活用した自由遊び
- ・外国人講師によるレッスンおよび日常的な関わり

これらを年間を通して継続的に行い、子どもたちの興味や反応に応じて内容を工夫・発展させた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語の音やリズムに自然に触れられるよう、保育室内に英語に関する教材を配置し、子どもたちが日常的に手に取れる環境を整えた。

具体的には、触って感触を楽しめる英語カードや、はらぺこあおむしのABC・123カード、音の出る英語カルタ、タッチペン付き英語図鑑などを用意し、視覚・聴覚・触覚を通して英語に親しめるよう工夫した。また、英語の歌が流れる玩具やマイクCD付き絵本などを取り入れ、音やリズムを楽しめる環境を構成した。

これらの教材を自由遊びの中で活用できるよう配置するとともに、保育士が日常の保育の中で積極的に取り入れることで、生活の中で自然に英語に触れるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

英語絵本の読み聞かせや英語の歌あそび、朝の会での簡単な英語表現の導入などを行い、日常の保育の中で英語の音やリズムに触れる活動を実施した。

外国人講師による定期的な英語レッスンにおいて、歌や身体を動かす活動、視覚教材を用いたやりとりを通して、英語の音やリズムに触れる機会を設けた。

また、自由遊びの時間には、英語教材を活用した活動を取り入れた。音の出る英語カルタを用いて、音声と絵を対応させる遊びを行ったほか、タッチペン付き英語図鑑を使用し、子どもが自ら操作して音声を聞くことができる環境を設定した。

さらに、英語の歌が流れる玩具を活用し、レッスンで扱った歌に継続的に触れる機会を設けた。加えて、触って楽しめる英語カードを用意し、触覚を通して語に関わる活動も取り入れた。

これらの活動を、日常の保育の中で継続的に実施した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちは音の出る教材に興味を示し、自ら手に取って遊ぶ姿が見られた。カルタでは、音を聞きながら絵を探そうとする様子や、繰り返し遊ぶ中で自然と音に親しむ姿が見られた。

タッチペン付き図鑑では、自分で操作して音が出ることを楽しみ、何度も繰り返しタッチする様子が見られた。英語の歌が流れる玩具では、音楽に合わせて体を動かしたり、発音をまねしようとする姿が見られた。

また、触って楽しめるカードでは、発音が難しい子どもも自ら手に取り、感触を楽しみながら関わる様子が見られ、それぞれの発達に応じた関わり方が見られた。

外国人講師とのレッスンでは、歌や動きを通して英語に触れ、視覚・聴覚・身体の動きを使いながら関わる姿が見られた。日常の遊びの中でも、その経験つながり、歌を口ずさんだり音に反応したりする様子が見られるようになった。

保育者は子どもたちの興味に寄り添いながら声をかけ、無理なく英語に触れられるよう関わっている。子ども同士でも音や動きをまねし合う姿が見られ、関わりが広がっている。
また、これらの様子については、写真や記録を通して共有・振り返りを行っている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは英語を言葉として理解するだけでなく、音やリズム、触覚などを通して自然に親しんでいることが分かった。特に、音の出る教材や自ら操作する教材を用いることで、主体的に関わる姿が多く見られた。

また、外国人講師のレッスンで経験した歌や活動が、自由遊びの中でも繰り返されることで、英語への親しみが深まっている様子が見られた。

発語の有無に関わらず、それぞれの子どもが自分なりの方法で関わるができる環境を整えることの重要性を改めて感じた。

今後も子どもたちの興味や発達に応じて、日常の保育の中に無理なく取り入れながら、継続的に活動を行っていきたい。